

オムロンヘルスケア研究開発及び本社新拠点

OMURON HEALTHCARE Co.,LTE New Head Office/R&D Center

No. 05-042-2016作成

新築
事務所／研究所

発注者	オムロンヘルスケア株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

「集い」と「個」の両立・エコワークスタイルを実現したオフィス

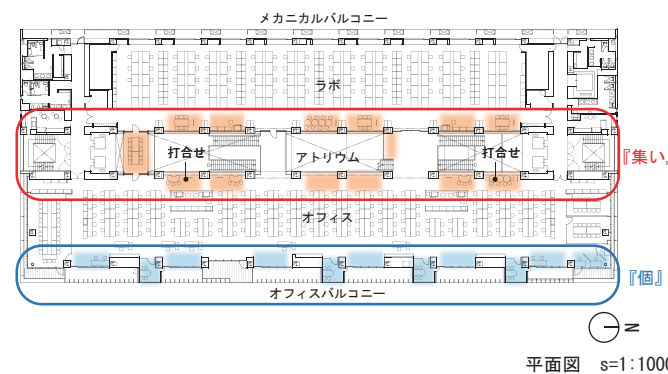
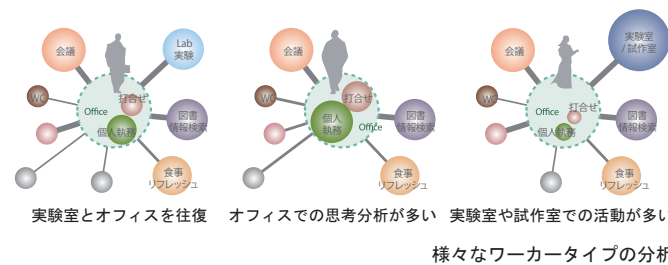


低層棟2階からルーフガーデンから見る高層棟

当建物は、血圧計や体温計などの健康医療機器やサービスを開発・販売するオムロンヘルスケアの新本社・研究所である。京都の桂川駅近くのビール工場跡地再開発エリアの一面に「ワーカーが個々の創造力を最大限発揮できる新拠点」として計画された。働く人の知的生産性を高める、快適な職場環境の実現と同時に、積極的な自然エネルギー利用など多様な環境技術の採用で、高水準の環境配慮型オフィスを実現した。第三者認証によるCASBEE 新築(2010)でSクラス (BEE=4.2) の高い環境性能を備える。

ワーカーの創造力を引き出す多様な場

ワーカーの行動分析を行い、自律的に個性能力を発揮する「個」の場と、組織知への統合・価値創造を行う「集い」の場を効果的に設定している。基準フロアはワーカーが同一平面上で行き来できる利便性を重視して、東側にオフィス、西側にラボを配する明快なゾーニングとし、中央のアトリウムはオフィスとラボの間に適度な距離感を生みつつ、ブリッジ、階段、会議室を組み込むことで回遊性を高め「集い」の場とし、ワーカーのアクティビティの核としての空間となっている。多様な場を設定し、ワーカーはオフィスやラボ・アトリウム・集中思考室など、アクティビティに合わせて場を移動することで、最適なパフォーマンスを生み出すオフィス環境の創出を意図した。



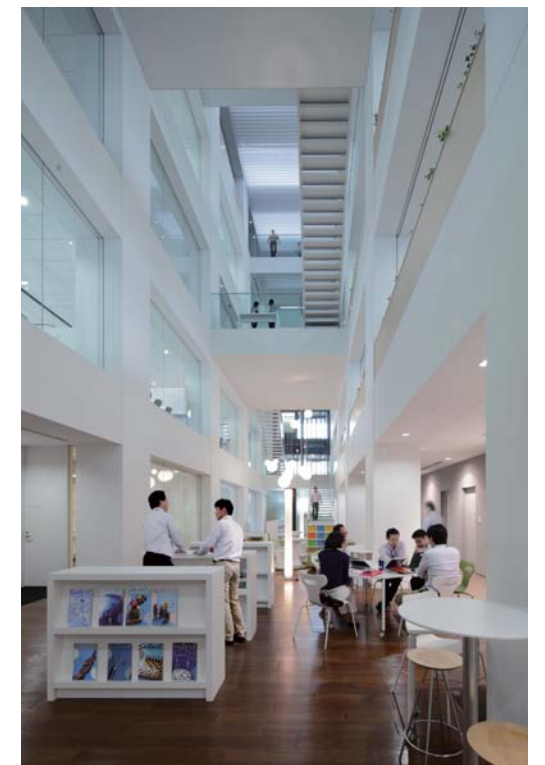
建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	PAL削減 11 %	Sランク	
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 32 %	BEE=4.2	
敷地面積	LCCO ₂ 削減 25 %	2010年度版 第三者認証	
数地面積			
延床面積			
構造			
階数			

エコワークスタイルをサポートする技術

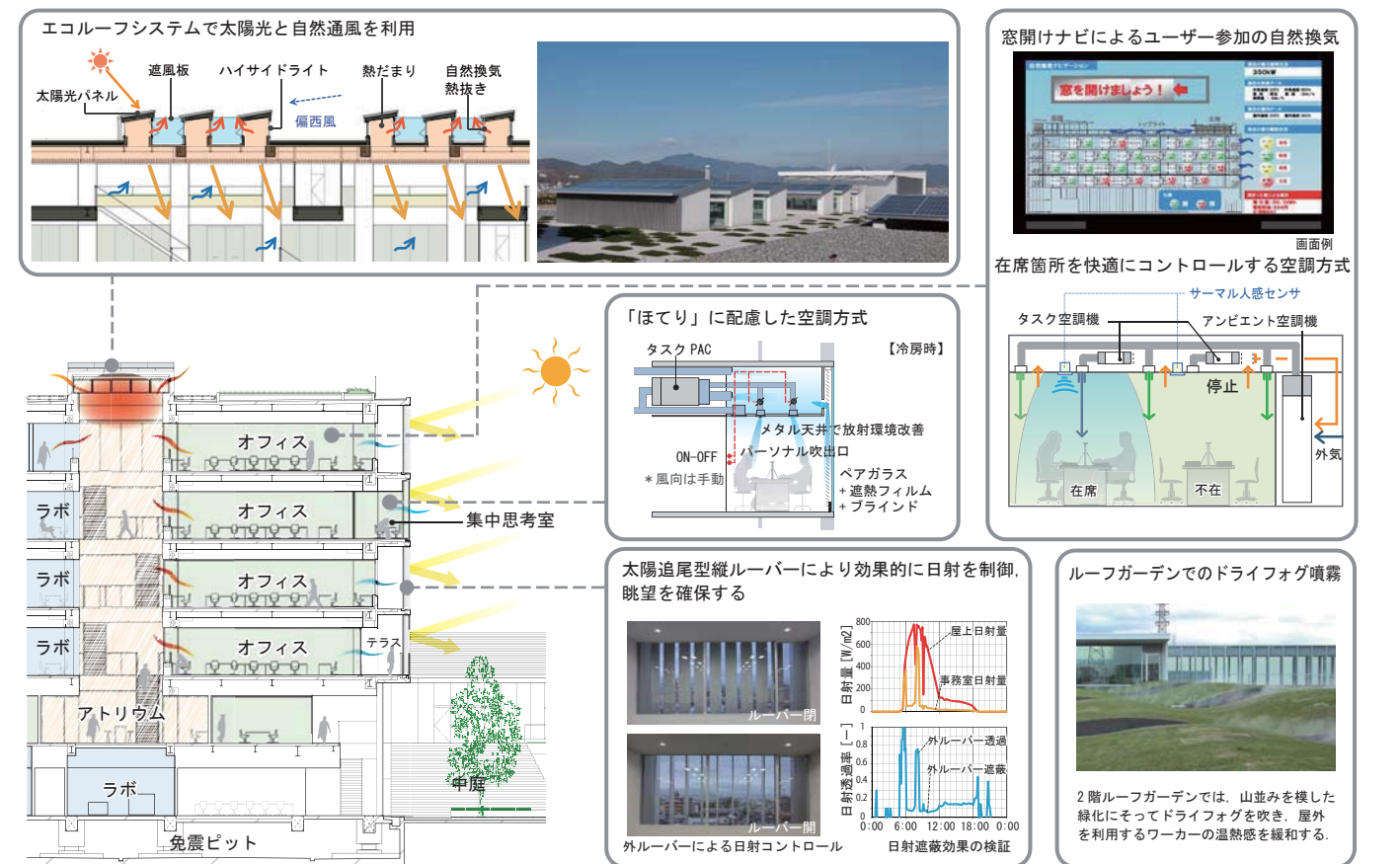
オフィスでは、アトリウムを利用した自然換気を行っている。各階の開口は手動開閉であり、事務室設置の「窓開けナビ」に「自然換気有効」「省エネ効果」を表示しユーザーの省エネ意識に訴えることで、ユーザー参加による自発的な自然換気を促す効果を意図した。オフィス東側窓面は、庇と太陽追尾型の電動縦ルーバーで日射を制御し、快適な視環境を確保している。午前中は自動制御で直達日射を遮蔽、午後は全開となり眺望を取り込む。冬季は上記に加え、早朝は全開とし日射を取り入れ、夜間は全開とし断熱性を高めると共に、ユーザーによる手動操作も可能としている。オフィスはラボとの往来で在席状況が変動するため、タスクアンビエント空調方式を採用。オムロン社開発の高精度人感センサを用いて、在席状況に合わせてタスク空調機と照明を制御している。また窓面積の大きな集中思考室では窓面からの「ほてり」に配慮し、微細孔の空いたメタル天井を利用した天井チャンパー給気方式の空調とし、室内に供給される冷風と天井面からの放射効果による冷房システムを採用。合わせて天井面に室内環境に応じて使用可能なパーソナル吹き出し口を設置し、気流による温熱環境改善を意図した。

建築計画と一体で行う自然エネルギー利用

ワーカーの働き方を豊かにするアトリウムと、頂部のトップライトを利用して、太陽光発電、自然換気を行っている。オムロン社開発技術を用いた、太陽光発電によるBCPに配慮した電力利用システムを構築し、常時の系統への給電と非常時の災害時避難場所等への電力供給を行っている。



アトリウム見上げ



設計担当者

統括：米田浩二/建築：相原幸一・高橋明之/ファシリティ・プログラミング：田中重良・大和田美以奈・宮本礼/構造：畠本齊・樋口聡・宮野鼻一郎・矢野貴大/設備：平岡雅哉・小池正俊・神谷麻理子/インテリアコーディネート：イリア/外構：ランドスケープデザイン社/照明（和紙光壁）デザイン：堀木エリ子&アソシエイツ

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化率, ピオトープ)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (外装及び外構計画に対し、地域の風土・歴史・文化の継承)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電パネル, トップライト, 自然換気, 可動ルーバーによる昼光制御, 快適な視(光)環境の創出)
- LR1. 4. 効率的運用 (詳細な電力消費量計測, BEMSデータによる空調/熱源/自然換気効率評価)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (持続可能な森林から算出された木材 (使用比率50%以上))